

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成20年1月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	270102106
法人名	株式会社サン工業
事業所名	グループホームサンライフ善知鳥
所在地	青森市古館1-13-26 (電話) 017-765-5217
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年9月13日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.3人

## (2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費400円/日 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	66歳	最高	89歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	水木内科クリニック、仲條歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心地から少し離れた場所に立地しており、外観は民家と同じで周辺の環境に溶け込んでいる。玄関には「気軽にお立ち寄りください」という看板があり、それを見て「入ってみてもいいですか」と立ち寄る方もいる。  
「その人らしく たのしく しあわせに」という理念が代表者や管理者始め全職員に浸透しており、職員は常に理念を振り返りながら、利用者への尊厳の姿勢を大切にケアを提供するよう心がけている。  
献立は外部の栄養士が作成しており、定期的に利用者の食事摂取状況について話し合いを行いながら、バランス等に配慮してメニューを立てている。また、食事前には健康体操を行う等、利用者の健康管理に努めている。  
医療機関との契約により医療連携体制を整えるほか、知人への面会や墓参り、温泉等の利用者の希望にそった場所に出かける等、利用者や家族のニーズに応じて柔軟な対応を行っている。

## 【特に改善が求められる点】

会議等で評価のねらいなどについて全職員に周知し、共有が図られているが、自己評価には主に管理者のみで取り組んでいるため、日々のケアの振り返りや新たな気づきの発見につなげるためにも全職員で実施してはどうか。  
職員個々の力量に応じた研修に派遣する等の取り組みは行われているが、年間の研修計画が作成されていないので、これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員の受講歴を把握し、内部・外部研修の年間計画作成に取り組むことに期待したい。  
年2回の避難訓練は行われているが、夜間の勤務体制を想定しての訓練も行ってはどうか。また、災害時に備えて、数日分の食料や飲料水等を用意することにも期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を全職員で話し合っており、ホーム便りを発行して地域への更なる啓発に努めたり、外部研修受講後は報告書や資料を基に会議で他の職員に伝達する等、改善に向けた取組が行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議等で評価の意義を全職員に周知しており、職員間での共有が図られている。自己評価実施にあたり、疑問点がある時は職員の意見を聞いているが、主に管理者のみで取り組んでいるため、今後は少しずつでも自己評価項目には全職員で取り組むことに期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には町会長や民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族等が参加している。会議では日々のケアや自己・外部評価の結果、その後の改善に向けた取組等を報告しており、委員から出された意見は今後の運営につなげている。また、会議録は参加メンバーではない家族にも配布しており、ホームの取組について理解してもらっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時や季刊誌、手紙、電話等で日々の暮らしぶり等を報告している。ホーム内外の苦情受付窓口を継続的に家族に周知するほか、家族が意見等を話しやすいよう面会時には声がけする等の配慮を行っており、意見や苦情が出された時には取り決めに従って対応し、今後のケアサービスに反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に近隣の方との挨拶を交わしたり、花等の差し入れをもらうほか、町内の掲示板を利用して行事案内をしたり、地域の行事に参加する等、地域との良好な関係が築かれている。見学やボランティアを随時受け入れており、その際には利用者や家族の意向を聞く等、利用者のプライバシーへの配慮が行われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に近隣の方との挨拶を交わしたり、花等の差し入れをもらうほか、町内の掲示板を利用して行事案内をしたり、地域の行事に参加する等、地域との良好な関係が築かれている。見学やボランティアを随時受け入れており、その際には利用者や家族の意向を聞く等、利用者のプライバシーへの配慮が行われている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を基にユニット目標や個人目標、月ごとの目標を掲げており、チームワークを大切にしながら日々のケアを提供している。また、地域交流に力を注いでおり、地域との良い関係が作られている。</p> <p>虐待のないケアに管理者始め全職員が取り組んでおり、また、虐待を発見した場合の取り決めが全職員に周知されている。</p> <p>新人職員の教育に力を入れており、採用後一週間、1ヶ月、3ヶ月の期間で面談を行っている。また、外部研修実施後は報告書等を基に全職員に伝達する等、職員の更なる質の向上に努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを開始できるよう、自宅を訪問するなどの面談の機会を作り、利用者や家族の意向の把握に努めている。</p> <p>職員は利用者と一緒に調理をしたり、日々の言動を細かく観察する等、一人ひとりの気持ちを理解しようと心がけている。また、野菜の切り方や漬け物の作り方を教えてもらう等、利用者や職員が協同して生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>職員は、利用者や家族との日々のコミュニケーションを大切にして意向や思いを把握するよう努めており、介護計画作成時に反映させている。また、計画作成時には職員間でのカンファレンスも行っており、個々に応じた具体的な内容となっている。</p> <p>重度化や終末期のケアに関する指針が定められており、指針は家族に示している。また、重度化や終末期に備えて利用者や家族、医療機関との話し合いを早期から行い、意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の話には耳を傾けるとともに、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を心がけている。また、一人ひとりのペースにあわせたケアを提供するよう努めている。</p> <p>入浴時間や曜日は決められてはいるが、入浴方法には利用者の意向を取り入れている。また、温泉の希望があれば近郊の銭湯に出かける等の支援も行っている。</p> <p>感染症や身体拘束に関するマニュアルを整備するほか、定期的に学習会を開き、理解を深めている。また、拘束のないケアに努めるとともに、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の取り決めも整えられている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解しており、地域との交流を活発にするために、できるだけ社会参加への機会を設ける等の取り組みを行っている。また、設立当初から地域との交流を図ることを意識し、「その人らしく たのしく しあわせに」というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げるほか、会議等では常に理念を周知し、職員間での共有を図っている。理念を基にユニットごとの目標や個人目標を設定しており、全職員が理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時に近隣の方との挨拶を交わす等の取り組みにより、花等の差し入れがあるほか、玄関には「気軽にお立ち寄りください」という看板が張られており、それを見て見学に立ち寄る方もいる。また、町内の掲示板を利用して行事の案内をするほか、地域の行事がある時には声をかけてもらい、参加している。見学やボランティアを随時受け入れており、その際には利用者や家族の意向を聞く等、利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、会議等で評価のねらいや活用方法等について職員に周知しており、共有が図られている。前回の評価結果について職員間で話し合い、改善に向けた目標を設定する等の取り組みが行われているが、自己評価は主に管理者のみで行われている。	○	日々のケアの振り返りや新たな気づきの発見につなげるためにも、自己評価項目には少しずつでも全職員で取り組んではどうか。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町会長や民生委員、利用者、家族の代表、地域包括支援センターの職員等が参加しており、行政担当職員にも参加を呼びかけている。会議では日々のケアや自己・外部評価の結果、その後の改善に向けた取り組み等を報告している。また、委員から意見を出してもらえよう働きかけており、委員から出された意見は今後の運営につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にパンフレットや広報紙等を配布するほか、自己評価や外部評価の結果を報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修等を通じて地域福祉権利擁護事業などの理解を深めている。職員は資料を基に概要を把握するよう努めているが、十分に理解するまでには至っていない。	○	外部研修後の伝達研修を行う等、全職員に更に具体的に周知し、利用を希望する方がいる場合には情報提供できる体制を整えることに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないという認識を全職員が持つとともに、未然に防ぐよう管理者は職員の日々のケアの場面を観察する等の取り組みを行っている。また、虐待を発見した時は速やかに上司に報告する等の取り決めがあり、職員はそれを理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書等を用いて十分に時間をかけて説明しており、必要に応じて家族を訪問して説明する等の対応を行っている。契約改訂時や退居時も十分に説明を行い同意を得ている。退居時には退居先の情報提供等も行っており、利用者や家族が不安にならないよう支援している。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や季刊誌、手紙、電話等で日々の暮らしぶりや健康状態等を報告するほか、職員の異動についても随時報告している。金銭管理状況は小遣い帳に記録し、面会時に領収書を添えて報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は声がけし、家族が意見等を話しやすい雰囲気作りに努めている。また、ホーム内外の苦情受付窓口や苦情処理の流れは重要事項説明書に明記するとともに、継続的に家族に周知しており、家族から意見や苦情等が出された時は流れに従って対応し、今後のケアサービスに反映させるよう努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は職員間での引き継ぎを行うほか、利用者への説明を行う等、利用者への影響が少なくなるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の取締役等が日々の業務について助言を行っている。新人職員向けの内部研修を実施するほか、個々の力量に応じた外部研修に職員を派遣し、受講後は報告書を基に会議で他の職員に伝達する等の取り組みは行っているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員個々の受講歴を把握する等の取り組みにより、内部・外部研修の年間計画を作成してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム立ち上げの際には法人内の他ホームでの職員研修を行ったり、様々な行事を合同で開催する等、法人内の他事業所との連携が図られている。また、県グループホーム協会に加入するほか、地域包括支援センターに働きかけて地区内のグループホームとの交流会議を開催する等、同業者との交流・連携の機会も図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してサービスを開始できるよう、自宅に訪問して利用希望者や家族と面談の機会を持つ等の取り組みが行われている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に調理を行ったり、日々の言動を細かく観察する等、一人ひとりの気持ちを理解しようと努めている。また、野菜の切り方や漬け物の作り方等、利用者が得意とすることは教えてもらうなど、利用者職員が協同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりや家族からの情報を基に、一人ひとりの思いや希望等を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者や家族の意向を反映させている。また、会議等で職員間での意見交換も行っており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、状態変化時等は随時見直しを行っている。見直しを行う時には再アセスメントを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関との契約により、医療連携体制を整えるほか、知人への面会やお寺参り、墓参り、温泉、買い物等、利用者の希望に応じた柔軟な対応を行っている。また、平成20年以降に短期入所の受け入れを計画中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保しており、いつでも気軽に相談できる体制が整えられている。受診結果は速やかに家族に報告するほか、必要に応じて家族にも同行してもらう仕組みとなっている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、指針が定められている。指針は家族に示すとともに、重度化や終末期に備えて利用者や家族、医療機関との話し合いを早期から行い、意志統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の話には耳を傾けるという姿勢を大切にするとともに、プライバシーや羞恥心に配慮した声かけ等を行っている。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、個人に関する書類は訪問者の目に付かない場所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、利用者一人ひとりのペースにあわせたケアを提供するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味付けを利用者に見てもらったり、下ごしらえや後片付け等を利用者と一緒に行っている。また、職員も利用者と一緒に食事を摂っており、会話を楽しみながら食べこぼし等へのサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴時間や曜日は決められているが、入浴方法等には利用者の意向を取り入れている。また、温泉が好きな利用者があり、時々近郊の温泉に出かける等の支援も行われている。入浴時には安全に入浴できるよう見守りを行うほか、羞恥心等にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと等を把握しており、個々に応じて家事や園芸、趣味活動等を促し、役割や楽しみごととなるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な行事として外出するほか、散歩や買い物、墓参り等、利用者の意向を聞きながら出かける機会を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員は、会議等で身体拘束の内容やその弊害について理解を深めており、拘束は行わないケアを実践している。マニュアルが整備されており、やむを得ず拘束を行う場合は理由等を記録に残すとともに、家族の同意を得る体制が整備されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアとなっており、家族の同意を得た上で、中から外に出る時はタッチボタンで操作している。利用者の外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時は職員が付きそう等の支援を行っている。また、無断外出時のマニュアルが整備されており、交番や近隣からの協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に地域からの協力が得られるよう、住民や警察署、消防署に働きかけを行っている。年2回の避難訓練を実施しているが、夜間を想定した訓練を行うまでには至っていない。災害時に備えて携帯ラジオやブランケット等は用意しているが、食料や飲料水等は用意されていない。	○	夜間の勤務体制を想定して避難訓練を行ったり、数日分の食料や飲料水等も用意すると、より安心なのではないか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部の栄養士が立てており、栄養バランスやカロリーに配慮されたものとなっている。1日の食事や水分の摂取量は把握しており、記録している。また、2ヶ月に1回、利用者の食事の摂取状況等について栄養士と話し合いを行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが整備されており、最新の情報が入った時には随時の見直しが行われている。感染症に関する理解を深めるために定期的な学習の機会を設けているが、家族への情報提供を行うまでには至っていない。	○	訪問看護師の協力を得ながら、季刊誌や面会時等を活用して、流行の感染症等に関する情報を家族に提供することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には温かみのある調度品が置かれているほか、スタンドグラスや季節感のある絵画等が飾られており、落ち着いた空間となっている。また、職員の立てる物音やテレビ等の音量、ホーム内の明るさは適切である。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込むよう家族等に働きかけており、使い慣れた物が持ち込まれている。また、レクリエーションで作成した作品を飾る等、個性のある居室となっている。		

※  は、重点項目。